





特別
 A5
 6673
 76
 早稲田大学図書館



安永六丁酉天



祝晨

ほひの春あふほくの
春あれともし一年も
きせしよふまを
むよ

大膳や

ゆもゆもまはる

徳小洲

四松亭
宇均

歳旦

老とれは流のふのふ又若えをー先 拾栗亭 兔流

と物こねと目わさかきき福ふま 昆乙

雄やうふお娘とて花のま 藤市

赤猪工こふ配をぬみ乾煮分 東箕

道葉へ向へハ世うふふいそとん 栢志

志川とてらんも居るそ春のま 百林

あひよふふも加増やれ乾煮 茂泉

南いせの方より 乃々一信 栢茂

序る所へ娘へんものまふ方ハ 栢茂

嘆きへておふ旅りー門トウウ 玉山亭 如仙

定へかきり下も度くとふ方栢 計之

足川あの人ぢやんやまことききまふ 和川
 こねやいさんとあつこらうらも 汶下
三笑窟
 内多免の戸へおぢやまま 有方
籬弁
 足川東風亦夜よきあり師弁 東芽
六考一と元よひも
こらひまに
いとくして 四日市
 番うらやぢやんやまことききまふ 笑山

申
年内立春

有方

去とあいのねりあうやまの肉
 眠るのもふあふのもふ 宇均

夕あうりに自然の懐えあひせて 兔流
 お恋服ふハ姉ふととやハ 藤市
 歪もあうらうらうけら 色漆 茂泉
 平に利生の位在り神 柳茂
 あきうらぬ光りを夜の月えとて 呂乙
 新りれ対の田面旅又 百林
大
 八句表

海ももせ只あまうり
 稻舟と記まれハ
 心とりあうら
 文とあうりしてや火種ハ
 四松主人

京橋治粹

